

第172回国労水戸地本拡大地方委員会

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂下 司

全員参加で運動を作ろう

国労水戸地本は3月4日、いわき市において、第172回拡大地方委員会を開催した。17春闘、組織拡大、労働条件改善について、当面する方針が確立した。

増副委員長の司会で始まり、議長に市井委員(勝田)が選出され、前に進む委員会へと挨拶した。

塚原委員長から戦争法廃止、労働法制、脱原発、反TPP、年金改悪を、17春闘と結合させ、職場と地域から団結と方針を切り開くと挨拶し



た。交運共済、松井本部長より、共済のあり方と労働組合の必要性の議論を報告があった。

つなげよう
技術わざと
魂こころと
運動を

東本部菊池委員長より春闘の状況、組織拡大について、一人ひとりが当たり前の運動、組織的な運動をして行こうと挨拶があった。

委員から、分会体制が変わり、執行委員会、班集會を開催し、参加者も固定化する中、新しい顔ぶれも参加している。職場問題を軸に共有化を

図り、一緒に作業をする中で、係わりを持って教え方や信頼関係を作り組織拡大に取り組んでいる。組合不要論が言われているが、国労が受け皿になり組合の大切さを訴えていく。エルダー制度で、24控除関係で配属先が早めに分かるようにお願いしたい。今年も駅から退職者が出るが、その補充について早めの対応を。委託化の拡大で、いわき駅が複数の駅を持つには限度があるのではないか。

書記長集約

組織強化拡大は、自信と確信で一歩前に出る。今までと違った行動を行っていく。

関連会社の組織化について、36協定代表者選挙の取り組みをはじめ、国労運動をどう継承していくのか交流をしていく。

反合理化・安全安定輸送について、相次ぐ輸送障害が続いている。要員問題と安全は一体のものとして、ゆとりある作業体制にしていく。

エルダー制度、出向先の労働条件では、各職場の要望、アンケート調査から、一人勤務や低賃金で働く意欲がなくなる。教育の不十分さがある。



職種によって新人が入って来る来ないで技術継承に問題がある。書記長集約、委員会宣言、団結がんばろうで閉会した。

福島原発事故は国労フクシマ交流会を継続し、風化させない取り組みを行う。

